

※これは THE WOLDFOLIO の Web サイトに掲載された当社 CEO インタビュー記事の日本語訳です。

～「秘められたモノづくりの価値」とは？～

## 研ぎ澄まされた機械を「仕上げる」重要性

Q. 日本のものづくりの精神や哲学である「モノづくり」は、伝統的には職人技によって製品の完成度を高めることを意味していました。しかし現在では、日々変化するお客様の要求に応え、最終的な製品に付加価値を提供することが求められています。日本を代表する塗料メーカーとして、「モノづくり」についてどのようにお考えですか？

日本の製造業の競争力は、「職人魂」と「おもてなし」にあると考えます。この2つは、日本のモノづくりの特徴であり、最も重要な要素だと思います。「職人魂」とは、「ものづくりの精神」のことですが、インターネットなどで調べてみると、「優れた専門技術を持ち、ものづくりに従事する人たちの強い誇りとプロ意識」と記載されています。昨今、このような「職人魂」は希薄になってきていると言われていますが、包丁や陶器などの伝統工芸品を作っている現場をみてみれば、いまだに現存していることに気づくはずですが、「おもてなし」ですが、オリンピックを日本に誘致するためのプレゼンテーションにおいて「おもてなし」が取り上げられたことで、「OMOTENASHI」は世界的に少し有名になりました。「もてなし」とは、心のこもった接客、ホスピタリティ、接遇のことであり、「もてなし」にさらに丁寧な意味を付与するために「お」をつけています。「おもてなし」は、英語では一般的にホスピタリティと訳されていますが、もっと内面的な真心のサービスと言えます。もちろん、製品の競争力には他の要素も関係していますが、「職人魂」と「おもてなし」の2つが、日本のモノづくりの原点であり、日本独自の価値観であり、私が最も大切にしているものです。

Q. 日本はこれまで、台湾、韓国、中国といった地域的な競争相手との激しい競争にさらされてきました。しかし、ハイテク分野では、日本は常にトップを走っています。なぜ日本はニッチなハイテク分野で優位に立っていると考えますか？

その理由も、「職人魂」と「おもてなし」にあるでしょう。「職人魂」は、製品に適切な機能を与えるだけでなく、自分がつくる製品に誇りと美意識を持っていることが特徴だと思います。しかし、グローバルな視点で見ると、製品の機能がすべてであり、それ以上の何か、

例えば必要以上の「思い入れ」や美しさなどよりも、安さを製品に求める顧客が多くいるのも事実でしょう。

Q. 膨大な種類の塗料の中で、どれがメインなのか教えてください。特殊な塗料ですか？それとも伝統的な塗料でしょうか？また、一番売れている製品についても教えてください。

当社の主力製品は、多くの塗料メーカーが製造していない特殊な塗料で、例えば導電性塗料や耐切削油性塗料がその代表格であり、多くの工作機械メーカーで採用いただいております。マシニングセンタなどの工作機械は、塗膜に対して非常に強いアタック性を持つ切削油を噴射して金属を切削するための機械であり、その精度とスピードでしのぎを削っています。一般的な塗料であれば、切削油が塗装部分に触れると1日も経たずに剥離してしまうこともあります。世界の多くの方は、工作機械の塗装が剥がれても工作機械が正常に作動し、金属加工できるのであればそれを気にしません。しかし、日本人は違います。日本人は自身が使う機械や道具を「相棒」として大切に、たゆまず働いてくれる工作機械を常にきれいにし、ワックス掛けまでする人もいます。そういう文化の中で、切削油に強い強靱な塗料が必要になったわけです。そこで江戸川合成の塗料へのニーズが顕在化しました。優れた耐切削油性を持つ当社の「エポリート」は、大手塗料メーカーに負けない抜群の耐油性を持っています。

Q. 昨年11月に発売された「ルブリワン」は、保護性能・美観・機能性に加えて、環境面にも配慮していますね。カーボンニュートラルな社会の実現に向けて、厳しい環境基準をクリアしたこの製品について、詳しく教えてください。

はい、その通りです。現在、環境意識や、生態系の持続可能性に関連した製品に対する意識は高まっています。これは塗料メーカーに限ったことではなく、私たちも例外ではありません。江戸川合成では、いかに自然を守るか、いかに環境に配慮するかを徹底的に考えています。法規制の面でも規制が強化されています。最近では中国の環境規制が厳しくなっており、中国への輸出が難しくなっています。江戸川合成は、各国の法規制への対応はもちろん、お客様のご期待にそえるよう、より環境に配慮した製品の開発に尽力しています。また、粉体塗装を得意とする他社と技術提携し、環境負荷の少ない粉体塗料の開発・販売に

も取り組んでいます。

Q. 日本企業が国際的な展開を視野に入れている中で、その技術を生かすために海外のパートナーと提携しているのを目にします。特定の分野で特定の企業との提携を検討していますか？また、製品開発において共創はどのような役割を果たしていますか？

当社が初めて海外市場に進出したのはタイでした。当社の導電塗料を採用して下さったある大手日系企業の量産工場がタイにあったことがきっかけです。活躍の場所をタイに限定しているわけではありません。タイは東南アジアのハブであり、周辺新興国との間にさまざまな販路があるので、東南アジア全域へ事業展開を目指しています。まずはタイにおける生産能力を確立し、周辺諸国の同業者と、技術的あるいは製造的な提携なども模索してまいります。

Q. 機器メーカーが主な顧客ですが、医療分野や鋼管メーカーなど、多くの業界にサービスを提供していることがわかります。カスタマイズされたサービスと、特殊な塗料を提供するパートナーとして選ばれている理由を教えてください。

一般的な塗料メーカーと当社は異なります。当社は、顧客要求にお応えする塗料をつくります。また塗料は「半製品」であり、塗装業者によって適切な塗装がなされて、はじめて適正な塗膜性能を発揮します。塗装環境も顧客によって異なりますので、それらにあわせた調整が必要であると考えます。最高の塗膜性能を顧客の製品で発揮させるため、さまざまな条件や情報を精査し、バランスのとれた高品質な完成塗膜を提供する姿勢が評価されているのだと思います。

Q. 江戸川合成の塗料の採用実績で、紹介したい事例はありますか？

現在、私たちが力を入れているのは導電性塗料です。

導電性塗料にはさまざまな用途がありますが、塗料を作っている私たちでも知らないものがたくさんあります。守秘義務がありますので詳細はお伝えできませんが、いくつか例をご

紹介したいと思います。

導電性塗料の一般的な用途は、電磁波シールドと帯電防止効果です。電磁シールドは、一眼レフカメラや医療機器などに使われ、電磁波や電気ノイズを外部に漏らさない、つまり遮蔽するためのものです。帯電防止効果は、静電気の放電による火災や障害を防ぐために用いられます。例えば、可燃性ガスが発生する場所で動作する産業用ロボットや、静電気の放電が許されない半導体製造装置などに使用されています。

最近、興味深い問い合わせがありました。導電性塗料を "発熱体" として使いたいというのです。日本は自然災害の多い国であり、冬に地震が発生し電気やガスが止まると、氷点下になる北陸地方などの被災地は危機的な状況に陥ります。そこで、私たちが開発した導電性塗料を使って電池で簡単に発熱できる装置を作り、被災者の方々に少しでも多くの「あたたかさ」を提供するというプロジェクトを進めています。

私たちが開発した導電性塗料が、電磁波から人体を守り、静電気による発火や破損を防ぎ、災害時に「あたたかさ」を提供することで社会に貢献できれば、大変光栄なことです。

また、水性タイヤ用塗料「アクアリコート」の販売も本格的に開始しました。

再生タイヤのサイドウォールを、ナチュラルに新品同様の質感に上げることができます。

「アクアコート」を使用したタイヤの再利用は、廃ゴムの数量削減を促進し、環境維持に関する面から SDGs への貢献を可能にします。

タイヤ更生サービスの需要が高まる中、「アクアリコート」はリグループやリトレッドなどのタイヤソリューションに最適な選択肢です。

**Q. 今後、新製品を開発していく上で、塗料メーカーとして乗り越えなければならない最大の課題は何だとお考えですか？**

当社の塗料はほとんどが工業用で、建築分野にはまだ導入されていません。なぜなら、建築用の塗料は比較的安価だからです。しかし、現在は病院などの特殊な施設でそのビジネスに関わっています。電磁波が発生する MRI や CT スキャンの部屋に、当社の塗料を活用できないかという話になっているのです。これら検査室の改装は、新たな電磁波シールドが必要となり、通常 2 週間程度かかります。しかし、当社の特殊塗料を使用すれば、その必要がなくなり、病院にとってはさまざまなメリットがあります。病院は毎日のように急患に対応しなければなりません。この 2 週間の待ち時間がなくなることはとても価値のあることなのです。病院にとって、これら検査室を常時利用できることは非常に重要です。

とはいえ、当社は建築関連の塗料に強いとは言えませんので、現在、建築用塗料に強みを持つ会社と交渉中です。彼らの技術と当社の技術を融合させ、より良い製品の開発を目指しています。もちろんですが、環境に配慮した塗料を開発中です。

Q. 株式会社ポリコンを買収した目的は何ですか？また、ポリコンが江戸川合成グループの傘下に入ったことで、どのようなメリットがありますか？

ポリコンは、分散技術を追求するワックス分散体のメーカーです。主にインキ用の添加剤を製造しています。この添加剤は、主に食品包装材に使用されるグラビアインキに耐スクラッチ効果を付与する機能を持っています。

江戸川合成と同様、配合・分散技術は重要な課題であり、比較的似通った製造プロセスを踏んでいることから、お互いの技術を相互に発展させることができると考えました。実際、ポリコンと江戸川合成で相互の設備を使った新製品の試作も始まっており、高いシナジー効果を発揮しています。

Q. 2013年には、タイに生産拠点を設立されました。この生産拠点を持つメリットや、新たに開拓した市場についてお聞かせください。

当時、カメラメーカーのタイ法人向けに電磁波シールド塗料の出荷が急増しており、現地生産のメリットを生かそうと考えました。また、工作機械メーカーにも金属塗料を供給しています。子会社であるポリコンの製品をタイの子会社で生産できるように設備投資を行い、タイだけでなく、マレーシアやインドなどの近隣諸国からの引き合いにも対応できるようにしました。東南アジアに製造拠点を持つことは、当社のグローバル展開にとって重要です。

Q. 海外を含めた、今後の事業展開に関する戦略について、もう少し詳しくお聞かせください。M&A・ジョイントベンチャー・生産拠点・販売拠点などについてはどうお考えですか？

まず第一に、御社のような優れたメディアを通じて、当社の優れた点をより多くの方に知っていただくことです。そのためには、技術でお客様のニーズに応えることができる、優れた

技術を持つ特殊塗料メーカーとしてのブランドを構築することが重要です。

今後は、自社が得意としない分野に秀でた同業他社や類似企業と業務提携し、新たな価値を創造していくことが重要になります。その手段としては、開発・製造拠点の拡充を目的とした M&A や合併事業が有効であると考えています。

Q. 御社にとって、ヨーロッパとアメリカの市場はどのような存在ですか？

アメリカについては、大学時代に短期留学していたこともあり、なじみがあります。しかし、現在は直接の取引はありません。アメリカやヨーロッパでも、今後は特殊塗料のニーズが高まっていくと思います。特殊な機能を持ちながら環境にも配慮した塗料は、潜在的な需要が多いと感じていますので、今後はもっと積極的に発信していきたいですね。

Q. 4年後の創立90周年の時に、もう一度このインタビューを受けることを想像してみてください。あなたは何を話したいですか？その時まで達成しておきたいことや、会社に対する夢は何ですか？

当社の特殊塗料が世界的に認められ、必要とされていること、そして、当社の塗料製品を通じて社会に貢献できることを話したいと思います。

そのためには、"モノづくりの精神"と"おもてなしの心"が大切です。

90周年までには、江戸川合成の特殊塗料がアメリカやヨーロッパで役立っていることを実感したいですね。